

3 アルストロメリア *Alstroemeria hybrida* (アルストロメリア科)

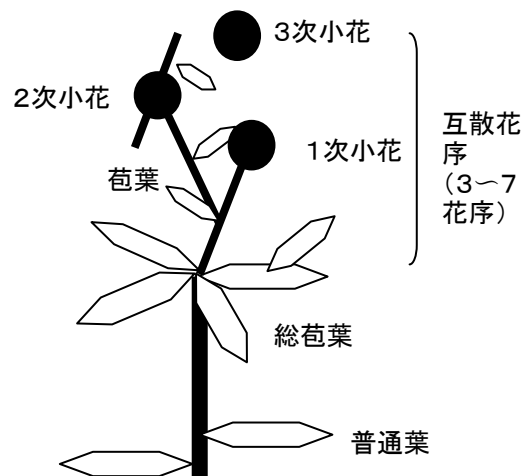
ユリ科とヒガンバナ科の中間的な位置にある南米原産の植物で、宿根または根が肥大して球根状となる。リグツ系品種とオランダで育種が進められた栄養系品種に大別されるが、後者の生産が圧倒的に多い。花色は豊富であるが、多くの品種で花被に黒斑が入る。洋花としてアレンジや家庭用に広く利用される。葉が傷みやすくまた黄変しやすいので、総苞葉より下の葉はできるだけ除去した上で生ける。葉の黄変の防止にはジベレリンやベンジルアデニンを含む溶液での前処理が有効である。また、花被の落下を防止するためにSTS処理が必須である。

1) 品質評価基準

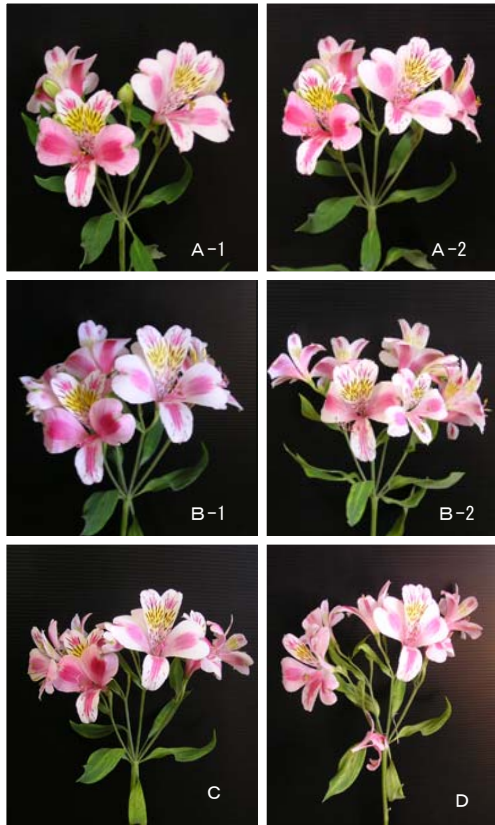
項目	判定基準	備考
小花の開花	互散花序内で上方に向かって開花する。 A:1次小花が開花する, B:2次小花が開花する, C:3次小花が開花する, D:3次小花が正常に開花しない(小花柄の徒長を含む)	標準的な切り前は、出荷時点で1次小花がほぼ開花した状態である。小花が極端に小さくなったり、花被が引きつれて開花した場合も異常開花とする。
花被の退色・発色不良	A:退色なし, B:1次小花が退色する, あるいは発色不良となる, C:2次小花が退色・発色不良となる, D:3次小花が退色・発色不良となる	
花被の萎凋・落弁	A:萎凋・落弁なし, B:1次小花が萎凋または落弁する, C:2次小花の1/2が萎凋または落弁する, D:2次小花のすべてが萎凋または落弁する。	花被が透明になった後萎凋する。萎凋後の花被は落弁せず褐変する場合もある。STS処理により落弁は抑制される。
茎葉の黄変	視覚的に茎および総苞葉で, A:黄変なし(緑), B:やや黄変する(黄緑), C:黄変する, D:激しく黄変する。	通常普通葉は除去する。
その他	葉の傷み, 折れ, 茎の腐りなど	

2) 留意点

不要な下葉は取り除いて生ける。
切り花を軽く振ってから測定する。
4次小花以降はチェックの対象としない。
葉の黄変や花被の落下をチェックして、
確実に前処理が行われているかどうかを判定する。



3) 開花



4) チェック事項



個体	項目	経過日数										日持ち日数	メモ			
		0	2	4	6	8										
1	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
2	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
3	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
4	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
5	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
6	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
7	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
8	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
9	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															
10	小花の開花 返色 発色 不 白															
	茎葉の黄変															
	その他															

評価条件等に関するメモ